

進路通信

いっぽ 一歩



2021/10/18
NO.10
北谷中学校
進路担当

高校体験入学・学校説明会に参加して①

コロナウイルスの影響で、体験入学が中止になったり、学校説明会が簡素化されたりしてきましたが、それ以前は1・2年生の体験学習を設けている学校もあったため、早いうちから進路選択に役立つ機会があったので、それも徐々に復活していくことを願いたいですね。

今回は、これまで体験入学・学校説明会に参加してきた3年生の感想を掲載します。

美里工業(建築科)

大兼 晃弥(1組)

各学科によって棟が分かれていた。建築科は二級建築施工管理技士が取れ、美里工業から沖縄電力に就職している人も多かった。みんなで協力して実習に取り組んでいた。将来の夢が広がると感じた。

美来工科(IT システム科)

宮良 安政(1組)

学習内容の半分が学科の専門的な学習をする。プログラミング実習では、わからないところを先輩方が教えてくれた。学校が県外の企業にもつながりがあって、一流企業に就職することもできるとわかった。

美来工科(コンピュータデザイン科)

宮城 瑠音(5組)

資格がたくさん取れ、普通高校よりも就職先が充実していたり、進学率も98%と高いことがわかった。パソコンを使う授業が多く、自分の好きそうなことがたくさんあって、行きたい気持ちが高まった。

普天間(普通科)

川上 麻華(1組)

1学年定員360名のうち、推薦は72名。81%くらいが進学していて、県外に出ている人も結構いた。楽しそうだった。

普天間(普通科)

デレオン デイション(1組)

定期テストの席次はなく、全国模試などで自分の順位を知る。生徒会が作成した動画がすごくおもしろかった。

普天間(普通科)

徳里 海風(1組)

文武両道に力を入れていて、どのような人材が欲しいかははっきりしていた。進学に向けて進路指導が充実している。

普天間(普通科)

渡名喜 友結(1組)

琉大進学者が多い。「普天間塾」という放課後学習する環境があるということがわかった。イベントも楽しそうだった。

普天間(普通科)

森 愛理(1組)

2年から文系・理系に分かれて勉強する。数検・英検・コンピュータ検定等に挑戦できることがわかった。

普天間(普通科)

津覇 花音(2組)

部活動も充実している。体育祭や学園祭などの行事も、楽しく取り組んでいた。推薦の書き方も知ることができた。

普天間(普通科)

内間 野恵(2組)

学校の雰囲気は自分に合っていると感じた。大学に行くだけの学力は十分すぎるほど身につけられる学校だと思った。

普天間(普通科)

仲尾次 杏理(3組)

早朝学習クラスは7:40から授業開始している。高校入試の際は入試点を重視していることがわかった。

普天間(普通科)

外間 里菜(3組)

自主学习を「平日2時間、休日4時間以上」することを勧めていて、学習に積極的な学校だと改めて思った。

★1・2年生対象体験学習のお知らせ★

みなさん、「船員」の仕事について知っていますか？

沖縄海事産業人材確保・育成推進協議会の主催で、進路を見据えた1・2年生のみなさんの進路を広げるため、沖縄水産高校で体験学習を行うそうです。興味のある生徒は保護者と相談のうえ、進路担当 糸満まで申し出てください。

高校名	沖縄水産高校 海洋技術科(船長コース・機関長コース)
対象	中学1・2年生
実施日時	令和3年11月16日(火) ◇校内締切 10月21日(木)
体験内容	<p>海洋技術科の紹介(船長コースおよび機関長コースのみ)</p> <p>沖縄水産高等学校施設・設備見学</p> <p>沖縄水産高等学校OB・在校生との意見交換</p> <p>実習船見学</p> <p>「船員の仕事」「船員になるための資格」「船の仕組み」の学習</p> <p>※参加する場合は保護者引率(希望者が複数いる場合はどなたか保護者一人)が必要です</p> <p>※参加定員20名程度のため、申し込みの段階で募集が終了している可能性もあります</p>

「東大生に学ぶ『分解力』」

今回のテーマは「分解力」です。「分解」とは違う言葉で説明すると「細分化」「具体化」のことです。頭のいい人は、勉強はもちろん、何に取り組むときでも、自分の目標や悩み、弱点を「分解」して考える能力が高いのです。たとえば、「自分は英語ができない」と悩んでいる学生がいたとします。「英語ができない」と漠然とした悩みだと、解決の糸口を見つけることは困難ですが、具体的に「英単語を覚えるのが遅い」などと、自分で弱点を把握していれば、「どうしたら暗記スピードが上がるのか」というように解決策も具体化しやすいのです。東大生は「わからない」で思考を止めません。「わからない」を「わからない」の一言で片づけないのが東大生で、「何がわからないのか」を分析して考えます。例えば、先ほどの「英語がわからない」にしても、その中でアルファベットはすべて書ける、「Hello」の意味はわかる、など「わかる範囲」を足掛かりに「どこからがわからないのか」「何がわからないのか」を分解し、突き止めることを東大生は粘り強く取り組みます。試験問題に向き合うときもそうです。パッと見たとき、できなさそうな問題があっても、東大生はすぐに諦めず、「どこまでならわかるのか」「どこからわからないのか」を明確にするのです。頭がいい人というのは、東大生が試験問題に向き合うときと同じで、仕事も日常の課題でも「わかる」「わからない」を分解する思考訓練を日頃から積んでいます。漠然としたものを、漠然としたままにしないで、分解する。それには「しつこさ」が必要で、「しつこく分解する習慣」というのが、頭のいい人とそうでない人を分ける大きな要素です。「しつこく分解する習慣」って、生まれつきの才能とは違いますよね！誰だって、いつからでも自分の頭をよくすることはできるんです。ぜひ皆さんも「分解力」を意識してみてください。



『『ドラゴン桜』に学ぶ東大メンタル やりたくないことでも結果を出す技術』より抜粋

画像は「ドラゴン桜」第5巻44限目「屋外での授業」より©Norifusa Mita/Cork